

2025年6月20日

関係各位

株式会社パテント・リザルト

【自動車メーカー】他社牽制力ランキング 2024 トップ3はトヨタ、ホンダ、日産

弊社はこのほど「自動車メーカー業界」の特許を対象に、2024年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別に集計した「自動車メーカー業界 他社牽制力ランキング 2024」をまとめました。

この集計により、直近の技術開発において競合他社が権利化する上で、阻害要因となる先行技術を多数保有している先進的な企業が明らかになります。

集計の結果、2024年に最も引用された企業は、1位 **トヨタ自動車**、2位 **本田技研工業**、3位 **日産自動車**となりました。

【自動車メーカー業界 他社牽制力ランキング 2024 上位10社】

順位	企業名	引用された特許数
1位	トヨタ自動車	5,468
2位	本田技研工業	2,560
3位	日産自動車	1,994
4位	マツダ	717
5位	豊田中央研究所	672
6位	SUBARU	582
7位	三菱自動車工業	487
8位	ヤマハ発動機	444
9位	スズキ	380
10位	ダイハツ工業	249

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2024年12月までに公開された全特許のうち、2024年1月～12月末の期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を対象に、抽出・集計をしています。

また本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2025年5月時点で権利を保有している企業の名義でランキングしているため、出願時と企業名が異なる可能性があります。

なお各企業の業種につきましては、総務省の日本標準産業分類等を参考に分類しています。

1位 **トヨタ自動車**の最も引用された特許は「運転者の意思に沿って自動的に自動運転が開始される運転支援装置」に関する技術で、CASE特許などの計6件の審査過程で引用されています。このほかには「アルミニウムスクラップを活用して、高強度かつ高耐食性のアルミニウム合金鍛造材を製造する方法」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、レゾナックの計5件の拒絶理由として引用されています。

2024年に、トヨタ自動車の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は本田技研工業（302件）、次いでデンソー（142件）となっています。

2位 **本田技研工業**の最も引用された特許は「複数のロボットにタスクを効率的に実行させることができるロボット制御装置」に関する技術で、オムロンなどの計5件の審査過程で引用されています。このほか「バイオエタノール燃料の環境への貢献度を反映した評価を行う燃料選択評価装置」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、トヨタ自動車の計5件の拒絶理由として引用されています。

2024年に、本田技研工業の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はトヨタ自動車（404件）、次いでスズキ（65件）です。

3位 **日産自動車**の最も引用された特許は「車両開閉体の制御装置」に関する技術で、東海理化電機製作所など計4件の審査過程において拒絶理由として引用されています。

2024年に、日産自動車の特許により影響を受けた件数が最も多い企業はトヨタ自動車（294件）、次いで本田技研工業（94件）となっています。

4位 **マツダ**は「車両の誤発進抑制装置」、5位 **豊田中央研究所**は「レーザセンサを搭載したフォークリフト」が、最も引用された特許として挙げられます。

* * *

また弊社では、ランキングデータを下記の通り販売しています。

【自動車メーカー業界 他社牽制力ランキング 2024 データ】

- ▶納品形態：以下のデータを収録したエクセルファイルをメールで御納品※
（※データ一式を収録したCD-Rでの御納品をご希望の場合はご相談ください）
 - ・ランキング トップ30社：本業界の被引用件数上位30社のランキング
 - ・被引用件数 トップ100件：本業界の被引用件数上位100特許、及び引用先の特許との対応
- ▶価格：50,000円（税抜）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

URL：<https://www.patentresult.co.jp/>

e-mail：info@patentresult.co.jp